

業績一覧

和文著書・総説

1. 広瀬文隆: 視神経のしくみとはたらき. 視神経のしくみとはたらきがわかれば疾患がわかる! みるみるわかる目の疾患. メディカ出版. 株式会社廣濟堂, 62-67, 2009
2. 広瀬文隆: 散瞳するとなぜ瞳孔ブロックが起きやすいのか? 眼のサイエンス 眼疾患の謎. 株式会社文光堂. 80-81, 2010.
3. 広瀬文隆: 原発閉塞隅角眼に対する白内障手術の有用性と成績. IOL&RS 24: 209-214, 2010.
4. 広瀬文隆: 原発閉塞隅角緑内障の外科的治療. 医学のあゆみ 234 (4): 273-277, 2010.
5. 広瀬文隆、栗本康夫: 前眼部 OCT は UBM の代わりになるか? 前眼部 OCT でわかること、UBM でわかることの違い. 眼科検査のグノーティ・セアウトン. 株式会社シナジー. 図書印刷株式会社. 162-164, 2010.
6. 広瀬文隆: 原発閉塞隅角緑内障の眼圧上昇機序とその対策—プラトー虹彩と水晶体機序. あたらしい眼科 29. 木下 茂編集, メディカル葵出版. 601-605, 2012.
7. 広瀬文隆: 診断に生かそう隅角検査: 隅角鏡の使い方、見方. 眼科グラフィック第2巻3号(通巻4号): 246-251, 2013.
8. 広瀬文隆: 診断に生かそう隅角検査: UBM による隅角検査. 眼科グラフィック第2巻3号(通巻4号): 252-256, 2013.
9. 広瀬文隆: II 原発閉塞隅角の病態 B プラトー虹彩. ALL About 原発閉塞隅角緑内障, 第1版, 医学書院, 55-60, 2014
10. 広瀬文隆: 第3章 原発閉塞隅角緑内障の診断 Topics UBM で観察する毛様体の影響. ALL About 原発閉塞隅角緑内障, 第1版, 医学書院, 113-114, 2014
11. 広瀬文隆: 第3章 原発閉塞隅角緑内障の診断 V 負荷試験の有用性と限界. ALL About 原発閉塞隅角緑内障, 第1版, 医学書院, 137-146, 2014
12. 広瀬文隆: OCT で狭隅角を評価する. 臨眼 68(13): 1722-1728, 2014.
13. 広瀬文隆: Vinsante と CASIA にはどのような違いがあるのですか? 緑内障なんでも質問箱 臨床眼科増刊号 69; 11: 67-71, 2015.
14. 広瀬文隆: 13. 眼圧検査 1) 眼圧測定法. 眼科検査ガイド, 第2版, 文光堂, 431-439, 2016

15. 広瀬文隆:13.眼圧検査 3)誘発試験.眼科検査ガイド, 第2版,文光堂, 443-445,2016
16. 広瀬文隆:閉塞隅角症・閉塞隅角緑内障. 前眼部画像診断 A to Z OCT・角膜形状波面収差の読み方. 前田直之, 大鹿哲郎, 不二門 尚 編, 第1版, 株式会社メディカルビュー社, 東京, 72-79, 2016.
17. 広瀬文隆:緑内障セミナー:前眼部 OCT による虹彩形状と隅角開大度の評価. あたらしい眼科 34; 2: 233-234, 2017.
18. 広瀬文隆:緑内障セミナー:眼圧変動と眼軸長の変化. あたらしい眼科 34; 3: 389-390, 2017.
19. 広瀬文隆:特集 原発閉塞隅角症/緑内障ーその対処法ー 1.閉塞隅角のメカニズム. 眼科 60; 3: 205-211, 2018.

その他: 2010年 今井記念緑内障研究助成基金

2016~2019年 日本眼科手術学会 手術一般分野プログラム委員

英文業績

1. Hirose F, Kiryu J, Miyamoto K, Nishijima K, Miyahara S, Katsuta H, Tamura H, Honda Y. In vivo evaluation of retinal injury after transient ischemia in hypertensive rats. *Hypertension*. 43:1098–1102, 2004.
2. Miyahara S, Kiryu J, Yamashiro K, Miyamoto K, Hirose F, Tamura H, Katsuta H, Nishijima K, Tsujikawa A, Honda Y. Simvastatin inhibits leukocyte accumulation and vascular permeability in the retinas of rats with streptozotocin-induced diabetes. *Am J Pathol*. 164:1697–706, 2004.
3. Miyahara S, Kiryu J, Miyamoto K, Katsuta H, Hirose F, Tamura H, Musashi K, Honda Y, Yoshimura N. In vivo three-dimensional evaluation of leukocyte behavior in retinal microcirculation of mice. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 45:4197–201, 2004.
4. Tamura H, Miyamoto K, Kiryu J, Miyahara S, Katsuta H, Hirose F, Musashi K, Yoshimura N. Intravitreal injection of corticosteroid attenuates leukostasis and vascular leakage in experimental diabetic retina. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 46:1440–4, 2005.
5. Musashi K, Kiryu J, Miyamoto K, Miyahara S, Katsuta H, Tamura H, Hirose F, Yoshimura N. Thrombin inhibitor reduces leukocyte-endothelial cell interactions and vascular leakage after scatter laser photocoagulation. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 46:2561–6, 2005.
6. Tamura H, Kiryu J, Miyamoto K, Nishijima K, Katsuta H, Miyahara S, Hirose F, Honda Y, Yoshimura N. In vivo evaluation of ocular inflammatory responses in experimental diabetes. *Br J Ophthalmol*. 89:1052–7, 2005.
7. Iwama D, Miyahara S, Tamura H, Miyamoto K, Hirose F, Yoshimura N. Lack of inducible nitric oxide synthases attenuates leukocyte-endothelial cell interactions in retinal microcirculation. *Br J Ophthalmol*. 92:694–8, 2008.
8. Nakano N, Hangai M, Nakanishi H, Inoue R, Unoki N, Hirose F, Ojima T, Yoshimura N: Early trabeculectomy bleb walls on anterior-segment optical coherence tomography. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*. 248(8):1173–1182, 2010.
9. Kotera Y, Hangai M, Hirose F, Mori S, Yoshimura N: Three-dimensional imaging of macular inner structures in glaucoma by using spectral-domain optical coherence tomography. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 52:1412–1421, 2011.
10. Nakamura H, Hangai M, Mori S, Hirose F, Yoshimura N : Hemispherical focal macular photopic negative response and macular inner retinal thickness in open-

angle glaucoma. *Am J Ophthalmol.* 151: 494–506, 2011.

11. Hata M, Hirose F, Oishi A, Hiramami Y, Kurimoto Y: Changes in choroidal thickness and optical axial length accompanying intraocular pressure increase. *Jpn J Ophthalmol.* 56(6):564–8, 2012.
12. Hirose F, Hata M, Ito S, Matsuki T, Kurimoto Y: Light–dark changes in iris thickness and anterior chamber angle width in eyes with occludable angles. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.* 251(10):2395–2402, 2013.
13. Matsuki T, Hirose F, Ito S, Hata M, Hiramami Y, Kurimoto Y: Influence of anterior segment biometric parameters on the anterior chamber angle width in eyes with angle closure. *J Glaucoma.* 24(2) :144–8, 2015
14. Yamada R, Hirose F, Matsuki T, Kameda T, Kurimoto Y: Comparison of Mydriatic Provocative and Dark Room Prone Provocative Tests for Anterior Chamber Angle Configuration. *J Glaucoma.* 25(6) :482–6, 2016
15. Hirose F, Kiryu J, Tabata Y, Tamura H, Musashi K, Takase N, Usui H, Kuwayama S, Kato A, Yoshimura N, Ogura Y, Yasukawa T: Experimental proliferative vitreoretinopathy in rabbits by delivery of bioactive proteins with gelatin microspheres. *Eur J Pharm Biopharm.* 129:267–272, 2018
16. Yoshimizu S, Hirose F, Takagi S, Fujihara M, Kurimoto Y: Comparison of pretreatment measurements of anterior segment parameters in eyes with acute and chronic primary angle closure. *Jpn J Ophthalmol.* 63:151–157, 2019

国内学会・講演(本人演者のみ)

1. 栗本康夫、野中淳之、田辺晶代、吉村長久、岡田守生、荻野 顕、田中康裕、黒田真一郎、広瀬文隆、永田 誠: 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略—Focus on Glaucoma—. 第 60 回日本臨床眼科学会、京都市、2006.10.5-8.
2. 栗本康夫、野中淳之、広瀬文隆、岡田守生、田辺晶代、家木良彰、黒田真一郎: 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略 2007—Focus on Glaucoma—. (インストラクションコース). 第 61 回日本臨床眼科学会、京都、2007.10.11-14
3. 広瀬文隆、板谷正紀、尾島知成、吉村長久、栗本康夫: PEA+IOL が有効であった若年性プラトー虹彩緑内障の一例. 第 31 回日本眼科手術学会、横浜市、2008.2.1-3
4. 広瀬文隆、板谷正紀、黒川歳雄、栗本康夫、吉村長久: 前眼部光干渉断層計を用いた生理的瞳孔変化における虹彩根部厚と隅角開大度の関係. 第 19 回日本緑内障学会、大阪市、2008.9.12-14
5. 栗本康夫、野中淳之、広瀬文隆、岡田守生、田辺晶代、家木良彰、黒田真一郎: 原発閉塞隅角緑内障: 今日の治療戦略 —Focus on Glaucoma— (中級向). インストラクションコース. 第 62 回日本臨床眼科学会、東京都、2008.10.23-26
6. 広瀬文隆、栗本康夫: 各象限別の機能的隅角閉塞の評価. 第 5 回京大眼科 Focus on Glaucoma、京都市、2009.2.20
7. 広瀬文隆、栗本康夫、板谷正紀、吉村長久: 各象限別の隅角閉塞の頻度とパターン. 第 31 回兵庫県緑内障研究会、神戸市、2009.3.14
8. 広瀬文隆: 超音波生体顕微鏡 (UBM) による前眼部所見の定量的評価 (ワークショップ). 日本超音波医学会第 82 回学術集会、東京都、2009.5.22-24
9. 広瀬文隆: 慢性原発閉塞隅角緑内障に対する白内障手術 (インストラクションコース講演). 第 63 回日本臨床眼科学会、福岡市、2009.10.9-12
10. 広瀬文隆、畑匡侑、木枕光木子、熊谷京子、平見恭彦、野中淳之、栗本康夫: 原発閉塞隅角眼における隅角閉塞のパターンと前房深度の関係. 第 20 回日本緑内障学会、宜野湾市、2009.11.13-15
11. 広瀬文隆、畑匡侑、木枕光木子、熊谷京子、平見恭彦、栗本康夫: 象限別の隅角閉塞の形状と前房深度の関係. 第 29 回神戸市立医療センター中央市民病院眼科オープンカンファレンス、神戸市、2010.3.13
12. 広瀬文隆: みんなの閉塞隅角緑内障. 中央区眼科講演、神戸市、2010.6.29
13. 広瀬文隆: 閉塞隅角緑内障の診断と治療. 神戸市眼科医会西区講演会、神戸市、2010.7.10
14. 広瀬文隆: みんなの閉塞隅角緑内障. 神戸緑内障フォーラム、神戸市、2010.7.23

15. 広瀬文隆: 原発閉塞隅角の治療としての白内障手術. (シンポジウム). 第 64 回日本臨床眼科学会、神戸市、2010.11.11-14
16. 広瀬文隆: 慢性原発閉塞隅角緑内障に対する白内障手術(インストラクションコース講演). 第 64 回日本臨床眼科学会、神戸市、2010.11.11-14
17. 広瀬文隆: 原発閉塞隅角の診療ポイント(教育講演). 第 9 回兵庫県眼科オープンカンファランス、神戸市、2011.9.10
18. 広瀬文隆: プラトー虹彩メカニズムと虹彩. (シンポジウム). 第 22 回日本緑内障学会、秋田市、2011.9.23-25
19. 広瀬文隆: 慢性原発閉塞隅角緑内障に対する白内障手術(インストラクションコース講演). 第 65 回日本臨床眼科学会、東京都、2011.10.7-10
20. 広瀬文隆: プラトー虹彩メカニズムと水晶体摘出術. 第 8 回緑内障手術研究会、大阪市、2012.1.20
21. 広瀬文隆: 原発閉塞隅角症/緑内障に対する水晶体再建術. 慢性 PAC の水晶体再建術(インストラクションコース、講演). 第 27 回 JSCRS 学術総会、第 51 回日本白内障学会、横浜市、2012.6.15-17.
22. 広瀬文隆: PAC に対する水晶体再建術(教育講演). 第 23 回日本緑内障学会、金沢市、2012.9.28-30
23. 栗本康夫、酒井 寛、国松志保、広瀬文隆、新垣淑邦、高橋秀肇、山本哲也: 原発閉塞隅角緑内障診療入門～閉塞隅角、ちゃんと診断できますか?～(インストラクションコース). 第 66 回日本臨床眼科学会、京都市、2012.10.25-28
24. 広瀬文隆: 慢性 PAC の水晶体再建術(原発閉塞隅角症/緑内障に対する水晶体再建術 インストラクションコース、講師). 第 28 回 JSCRS 学術総会、第 52 回白内障学会、東京、2013.6.27-29
25. 広瀬文隆: 暗室うつむき試験は有用か? (シンポジウム). 第 24 回日本緑内障学会、東京、2013.9.21-23
26. 広瀬文隆: 閉塞隅角の治療適応を考える(講演). 第 36 回兵庫県緑内障研究会、神戸市、2014.2.8
27. 栗本康夫、広瀬文隆、家木良彰、黒田真一郎: 慢性 PAC の水晶体再建術(原発閉塞隅角症/緑内障に対する水晶体再建術 インストラクションコース、講師). 第 29 回 JSCRS 学術総会、2014.7.11-13, 福岡市
28. 広瀬文隆: 前眼部の構造変化を捉える(シンポジウム). 第 25 回日本緑内障学会、大阪市、2014.9.19-21
29. 広瀬文隆: 診断と鑑別 (教育セミナー). 第 38 回日本眼科手術学会、京都市、2015.1.30-2.1
30. 広瀬文隆: 前眼部構造の画像解析(講演). 第 11 回京都眼科 Focus on Glaucoma、京都市、2015.3.13

31. 広瀬文隆:慢性 PAC の水晶体再建術(インストラクションコース/講師). 第 30 回 JSCRS(日本白内障屈折矯正手術学会)学会. 東京,2015.6.19-21.
32. 広瀬文隆:閉塞隅角緑内障を読み解く!(特別講演). 神戸市眼科医会北区講演会, 神戸市, 2015.8.22
33. 広瀬文隆:緑内障進行判定のポイント(講演). タプコム発売 1 周年記念講演会 in 関西, 大阪市, 2016.2.28
34. 広瀬文隆:閉塞隅角緑内障を読み解く!(特別講演).第 7 回関西 Glaucoma Update, 大阪市, 2016.6.25
35. 広瀬文隆:みんなの閉塞隅角緑内障(特別講演).滋賀県眼科セミナー, 大津市, 2016.9.3
36. 広瀬文隆:閉塞隅角緑内障の診療ポイント(特別講演).なにわ眼科勉強会, 大阪市, 2016.9.6
37. 広瀬文隆:閉塞隅角の科学(シンポジウム).第 27 回日本緑内障学会, 横浜市,2016.9.17-19.
38. 広瀬文隆:水晶体摘出術後の閉塞隅角緑内障.第 14 回兵庫県眼科オープンカンファレンス, 神戸市,2016.10.8.
39. 広瀬文隆:閉塞隅角緑内障を解き明かす!(特別講演).兵庫区眼科懇話会, 神戸市, 2016.10.20
40. 広瀬文隆:閉塞隅角緑内障を解き明かす!(特別講演).神戸市眼科医会西区講演会, 神戸市, 2016.11.10
41. 広瀬文隆:前眼部 OCT でわかる閉塞隅角緑内障(特別講演). 第 279 回広島眼科症例検討会, 広島市, 2017.3.9
42. 広瀬文隆:閉塞隅角緑内障を解き明かす!(特別講演).宝塚市眼科医会学術講演会, 宝塚市, 2017.3.25
43. 広瀬文隆:慢性 PAC の水晶体再建術(インストラクションコース/講師). 第 32 回 JSCRS(日本白内障屈折矯正手術学会)学会. 東京,2017.6.24.
44. 広瀬文隆:今さら聞けない隅角検査(講演). 第 17 回近畿眼科オープンフォーラム, 大阪市, 2017.8.26
45. 広瀬文隆:緑内障の病態と治療(講演). 第 16 回中央区薬剤師学術講演会, 神戸市, 2017.9.9
46. 広瀬文隆:閉塞隅角に対する負荷試験は有用か?(ミニ教育講演).第 19 回兵庫県眼科フォーラム, 神戸市, 2017.9.16
47. 広瀬文隆:隅角の 101(シンポジウム). 第 28 回日本緑内障学会, 広島市, 2017.9.29
48. 広瀬文隆:前眼部 OCT で閉塞隅角を解き明かす!(特別講演)第 8 回福島眼科セミナー, 福島県郡山市, 2018.5.26

49. 広瀬文隆:慢性 PACD の水晶体再建術(インストラクションコース/講師). 第 33 回 JSCRS(日本白内障屈折矯正手術学会)学会. 東京, 2018.6.30.
50. 広瀬文隆:緑内障の病態と治療. 大塚製薬社内講演会, 神戸市, 2018.7.20
51. 広瀬文隆:緑内障の病態と治療. アルコンファーマ社内研修会, 神戸市, 2018.8.31
52. 広瀬文隆:閉塞隅角緑内障の診療ポイント. 灘区眼科医会秋季勉強会, 神戸市, 2018.10.24
53. 広瀬文隆:隅角癒着解離術(GSL)(シンポジウム). 第 42 回日本眼科手術学会, 横浜市, 2019.2.3
54. 広瀬文隆:原発閉塞隅角緑内障と前駆病変(サブスペシャリティーサンデー). 第 123 回日本眼科学会, 東京, 2019.4.21
55. 広瀬文隆:緑内障の病態と治療(講師). 関西医療薬学研究会, 神戸市, 2019.5.19
56. 広瀬文隆:慢性 PACD の水晶体再建術(インストラクションコース/講師). 第 34 回 JSCRS(日本白内障屈折矯正手術学会)学会. 京都市, 2019.6.29.
57. 広瀬文隆:知っておきたい緑内障の最新情報 ~専門医が語る気になる検査・治療~. 第 6 回ライフ&シニアハウス神戸北野医療セミナー. 神戸市, 2019.9.14.
58. 広瀬文隆:原発閉塞隅角病(PACD)の手術戦略. 第 34 回千葉県眼科手術懇話会. 東京, 2019.11.16.
59. 広瀬文隆:緑内障の病態と治療. 日本点眼薬研究所社内研修会, 神戸市, 2020.8.21

国際学会

1. Kurokawa T, Hangai M, Hirose F, Ojima T, Kurimoto Y, Yoshimura N: Correlation of Thickening Ratios of Iris Root and Decrease in Angle Closure Distance Using Anterior Chamber Optical Coherence Tomography.. World Ophthalmology Congress, Hong Kong, 2008.6.28-7.2
2. Kurimoto Y, Kimakura H, Kumagai K, Hirose F, Nonaka A, Uemura A, Hirami Y : Long-term Outcome of Cataract Surgery as an Initial Treatment for Primary Angle Closure. World Glaucoma Congress 2009, Boston, Massachusetts, USA. 2009.7.8-11
3. Hirose F, Hangai M, Kurimoto Y, Yoshimura N: Analysis of Light-Dark Changes in Iris Thickness and Anterior Chamber Angle Width in Eyes with Occludable Angles. World Glaucoma Congress 2009, Boston, Massachusetts, USA. 2009.7.8-11
4. Hirose F, Hata M, Nonaka A, Kurimoto Y: Relationship between angle closure and anterior chamber depth in eyes with occludable angles. 7th Asian Angle Closure Glaucoma Club Meeting, Kuala Lumpur, 2009.12.5-6
5. Hirose F, Hata M, Ito S, Kimakura H, Hirami Y, Kurimoto Y: Analysis of light-dark changes in iris convexity in eyes with occludable angles. The 9th congress of the European Glaucoma Society, 2010.9.12-17, Madrid, Spain
6. Hirose F, Matsuki T, Hata M, Ito S, Kimakura H, Kimakura M, Kurimoto Y: Relationship between iris thickness and iris convexity in eyes with occludable angles. Asia-Pacific Joint Glaucoma Congress (APJGC) 2010, 2010.12.3-5, Taipei, Taiwan
7. Matsuki T, Hirose F, Hata M, Ito S, Kimakura H, Kimakura M, Hirami Y, Kurimoto Y: Analysis of light-dark changes in iris convexity and anterior chamber angle width in eyes with occludable angles. Joint Congress of SOE AAO. 2011.6.4-7, Geneva, Switzerland.
8. Hata M, Hirose F, Oishi A, Hirami Y, Kurimoto Y: Changes in Choroidal Thickness and Axial Length Accompanying IOP Increase. American Academy of Ophthalmology Orlando 2011. Orlando, U.S.A 2011.10.22-25
9. Hirose F, Matsuki T, Kameda T, Hirami Y, Kurimoto Y: Correlation between ciliary process-to-process distance measured using wide-scanning-field ultrasound biomicroscopy and axial length in eyes with occludable angles. APAO/SOE Busan 2012, Busan, 2012.4.13-16.
10. Kameda T, Hirose F, Matsuki T, Hirami Y, Kurimoto Y: Changes in angle and iris

parameters after phacoemulsification in eyes with occludable angles. XX Biennial Meeting of the International Society for Eye Research (ISER 2012), 2012.7.21–25, Berlin, Germany.

11. Matsuki T, Hirose F, Kameda T, Hiramami Y, Kurimoto Y: Influence of Anterior segment biometric parameters on anterior chamber angle width in eyes with occludable angles. XX Biennial Meeting of the International Society for Eye Research (ISER 2012), 2012.7.21–25, Berlin, Germany.
12. Matsuki T, Hirose F, Kameda T, Hiramami Y, Kurimoto Y: Influence of Anterior Segment Biometric Parameters on the Anterior Chamber Angle Width in Eyes with Angle Closure and Open Angle. 2013 Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual meeting, 2013.5.5–9. Seattle, Washington, USA.
13. Matsuki T, Hirose F, Kameda T, Hiramami Y, Kurimoto Y: Correlation between iris thickness and anterior segment biometric parameters in relation to physiological pupil dilation in eyes with angle closure and those with open angle.. The 5th World Glaucoma Congress, Vancouver, 2013.7.17–20
14. Yamada R, Hirose F, Matsuki T, Kameda T, Hiramami Y, Kurimoto Y: Comparison of mydriatic provocative test with darkroom prone provocative test for determining anterior chamber angle configuration in eyes with primary angle closure. The 5th World Glaucoma Congress, Vancouver, 2013.7.17–20
15. Matsuki T, Hirose F, Kamdea T, Hiramami Y, Kurimoto Y: Interrelation Between Iris Thickness and Anterior Segment Biometric Parameters in Relation to Physiological Pupil Dilation in Eyes with Angle Closure and Those with Open Angle. WOC2014 (The 34th World Ophthalmology Congress), Tokyo, 2014.4.2–6
16. Uyama H, Kameda T, Hiramami Y, Hirose F, Nishida A, Ishida K, Kurimoto Y: Investigation of Ex-PRESS device placement after Ex-PRESS glaucoma filtration device surgery using anterior segment optical coherence tomography. 2014 Annual Meeting, Orlando, Florida, 2014.5.4–8
17. Yoshimizu S, Hirose F, Fujihara M, Kurimoto Y: Measurement of the anterior chamber and iris volume in eyes with angle closure using anterior segment optical coherence tomography. The 6th World Glaucoma Congress, Hong Kong, 2015.6.6–9
18. Uyama H, Kameda T, Fujihara M, Hirose F, Kurimoto Y: Anterior segment OCT imaging after ex-press filtering surgery combined with deep sclerectomy. AAO 2015, Las Vegas, 2015.11.14–17

19. Hirose F: Management of Malignant Glaucomas (Invited Symposium). The 31st Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress (APAO 2016), Taipei, 2016.3.24-27
20. Yamamoto S, Hirose F, Fujihara M, Kurimoto Y: Ten-year outcomes of cataract surgery for primary angle closure. The 33rd Asia-Pacific Academy of Ophthalmology (APAO) Congress / The 29th Hong Kong Ophthalmological Symposium, Hong Kong, 2018.2.8-11(P)